

登録コード	L2120300	開講年度	2026				
担当教員	氏岡 真士			副担当			
授業科目	中国文学概論 I						
英文授業名	Chinese Literature: Introduction I						
授業タイトル	中国文学概論						
単位数	2	対象学生	1－4	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・3時限
講義室	人文第3講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			⇔	能動的に受講することによって、人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力を概括的に身につけることができるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	今期はおもに中国古典小説を対象とし、それを中国語で書かれた文学として学びます。						
授業計画	1. 小説と物語 2. 志怪から伝奇へ 3. 仏教と説教 4. 新たな「小説」の誕生 5. 神話の没落 6. 類書から通俗類書へ 7. 短篇小説だった水滸伝 8. 公案概念の変遷 9. 包龍図の登場 10. 幽霊さまざま 11. 話本から小説へ 12. 礼教と女性 13. 白蛇伝の変遷 14. 金瓶梅から紅樓夢へ 15. 清末小説に至る流れ						
成績評価の方法	平常点（毎回の授業への能動的参加度。次項および「履修上の注意」等参照）。						
成績評価の基準	1. 授業への必要な準備 2. 準備の成果を反映した朗読や内容理解 3. 毎回の積極的な参加 およそ以上の諸点を等分し、達成できた度合を合算して、総合的に判定します。						
事前事後学習の内容	1. 上述の諸点に留意しつつ、必要事項を踏まえて十二分に予習し； 2. 授業によって必要事項を明確に把握し； 3. それを次の予習に生かすことが、すなわち復習です。						
履修上の注意	毎回の積み重ねが、あなたの実力と評価の双方につながります。 初回から参加することが、能動的に学ぶ第一歩です。 受講希望の場合は、遅くとも開講初日の三日前までに、念のためムードル（eALPS）で最新情報を確認し、必要な対応を行なっておくことをお勧めします。 予習として、まず教材の日本語が、自信を持って朗読・理解できるようにしておくこと。 なお中国語学・中国文学関係の受講生には、現代中国語音での朗読も求めます。						
質問、相談への対応	平日の日中できるかぎり随時、歓迎します。詳しくは授業で。						
教科書	大塚秀高『中国古典小説史』（ちくま学芸文庫2024年）						
参考書	金文京『漢文と東アジア』（岩波新書2010年） 武田雅哉ほか『中国文学をつまみ食い』（ミネルヴァ書房2022年） 吉田富夫『中国現代文学史』（朋友書店2007年） 吉田富夫『中国当代文学史』（朋友書店2022年） 他にも随時、紹介します。						